

地方創生2.0KPI検討会（第3回）議事要旨

日時：令和7年11月27日（木）14時00分～15時00分

場所：中央合同庁舎8号館8階特別中会議室

＜ロジックモデルについて＞

- ロジックモデル全体について、インパクトとアウトカムの関係が整理され、指標の数も絞ったことによって明確になっている。
- 今回インパクトとアウトカムがよく整理されたことで、1は産業、2はインフラ、3は人という3本の柱でより地方を住みやすいようにするという方向が明らかになったのではないか。
- アウトプットは基本的に国、あるいは地方の政府がコントロールできるものと定義し、それが分かるような表現とすべき。各府省庁の施策がアウトプットになると思うが、アウトカムを達成するために何が重要なのか優先順位をよく考えていただきたい。

＜KPIについて＞

- 「強い経済」のGDPに係るアウトカム指標について、東京圏のGDPの上昇率に関わらず東京圏以外でのGDPの上昇率が評価できるよう、地方圏のGDP上昇率とするのが良いのではないか。
- 「強い経済」の人材に関するアウトカム指標の1つを「デジタル人材」とすることが適切であるかどうか。「強い経済」を実現するにはデジタルを活用して新たな価値を創造する経営人材であると考える。
- 「選ばれる地方」は、若者にも関係するが特に女性が強調されている印象があるため、ジェンダーギャップに関連する指標があつても良いのではないか。
- KPIによって、既に打ち出しているもの、打ち出しに時間がかかるものなど様々なになると思う。このKPIはこのようにすることに決めたなどの対外的な公表や説明はよく考え、地方版総合戦略を策定し

ている地方公共団体によく隅々まで伝わるように考えていただきたい。

＜PDCAについて＞

- 今後は、具体的な数値目標を内閣官房が各府省庁と相談して決めていくことになるが、目標を達成する時期や、数値目標の妥当性、検証をどのようにきちんと進めていくかという点をよく考えていただきたい。
- インパクトやアウトカムのKPIは達成までに時間もかかるものであり、期待通りでなかったとしても外的な要因が影響する可能性もあるため、中長期的な視野が必要。一方、アウトプットKPIについては、より重要な施策に資源を投入することが必要になるため、毎年よくKPIをチェックして、施策をレビューしていただきたい。
- アウトプットについては、アウトカムにつながる事業を選定し、その際、出来上がりの姿に加えてプロセスを示すことが重要。また、インパクトは長期的な視点に立って達成状況を見ていくことが必要であり、5年後には変化が現れていないことも想定されるため、プロセス重視で取り組んでいただきたい。

＜その他＞

- 今回のロジックモデルは国の政策として全国一律的な方向を示していくものであるが、各都道府県が自分たちの状況をよく把握した上でここに掲げた政策の優先順位をつけて、自分事として取り組み、各地方自治体の総合計画を考えていくことが重要。
- これだけ短い期間に総合戦略が変わってしまうと、地方版総合戦略を策定する側の地方公共団体にも混乱がある。それが地方公共団体の負担感にもつながるため、国の総合戦略に関する整理を示すことができると良いのではないか。
- 本年6月に閣議決定された「地方創生2.0基本構想」では広域リージョン連携が比較的新しく出てきたものだと思うが、どのような形

で広域リージョン連携は盛り込まれるのか。

(以上)